

広報

ただみ

3

2012 月号

No. 502

平成24年3月10日



今月の表紙

つる細工の技をマスターしようと3月4日、ブナセンターに集まったのは「またたび屋」のメンバー。地元講師の指導を受けながら、またたびを使ったザルやカゴ作りに夢中で取り組んでいる。講習会は毎週木曜と日曜に開かれ、毎回約10名が顔を合わせる。【関連記事17頁】

第40回只見ふるさとの雪まつり・・・2～5
「自然首都・只見」ブランド確立のための
検討委員会が町に提言・・・・・・・・・・6～9
地域人材育成ダイヤモンドプラン事業・・・・・・・・10～11
第50回記念只見町民スキー大会 他・・・・・・・・12～15
町の話題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16～17

みんなで復興がんばっぺ！



思いよの時間... いっしょの時間...

只見町がひとつになる、誰もが感動する、すべての来場者を魅了する、冬の祭典「第40回只見ふるさとの雪まつり」が、2月10日の大雪像ライトアップ（前夜祭）からスタートし、11日、12日の二日間にわたりJR只見駅前広場をメイン会場に、只見スキー場、季の郷湯ら里をサブ会場とし盛大に行われました。



雪が降り積もる、只見の冬を象徴するような天候のなか、行われた雪まつりには、期間中2万人が足を運び、只見のスノーフェスティバルは最高の盛り上がりを見せました。

毎年、圧倒的なスケールで入場者を迎えてくれる大雪像、今年姿を現したのは、ドイツのパリエルン州にあり、ドイツ・ブランドの城のモデルにもなっている「ノイシュヴァンシュタイン城」です。とてもロマンチックな形で子どもから大人まで楽しめる人気の高い建物です。本物にも負けないくらい美しい大雪像は、高さ18メートル、幅32メー

トルと昨年を上回る大きさで完成しました。

雪の入場門「辰」は今年も（株）J P ハイテック田子倉事業所の皆さんが作製されました。大きくて精悍な門の前で記念撮影する来場者も大勢いました。

今年も小学生、中学生、高校生が作製した雪面の壁画や雪像が来場者を迎え、さらには災害からの復興を祈念した、夜になると優しい温かな光が心を癒すキヤンドルステージをはじめ、各団体の皆さんが作製された雪像の数々が来場者の目を引いていました。また、雪のすべり台や、かまくらには子どもたちが集い歓声が上がっていました。

そして、訪れた皆さんを温かく迎えてくれる「ゆきんこ市」にも大勢の方々が集い、只見ならではの熊汁やうさぎ汁を味わったり、ゲームをしたりして楽しんでいました。マドンケパブも人気で店の前には列ができていました。

恒例の地酒・甘酒のふるまいコーナーや、只見町赤十字奉仕団によるなめこ汁のふるまい、民芸品・つる細工展示即売コーナー、木の葉、只見町食生活改善推進委員会のコーナーにも家族連れなどが集い、焼き餅やニシン漬けなどの地元料理を味わっていました。

第40回只見ふるさとの雪まつり



TADAMI
Snow Festival
Photo memories

只見スキー場では、スノーモービル体験やスノーシュー体験が行われ、雪と触れ合うスポーツの醍醐味を味わおうと大勢の方が詰めかけました。

季の郷湯ら里でも、雪まつり協賛イベントとして、渡部等さん(小川)の絵画展「雪虫の郷を描く」が開かれました。

昨年7月に襲った集中豪雨で只見町は大被害を経験し、雪まつりの開催も検討されましたが、この時期だからこそ、町民の心をひとつにして、復興を願い、明るく元気な只見町を取り戻そうと、テーマを「みんなで復興がんばっぺー!」とし第40回の記念すべき雪まつりは行われました。

福島は原発事故による風評被害もあるなか、町外、県外からも大勢の皆さんが訪れ、最高の盛り上がりを見せました。復興までの道のりは長く厳しいものと思いますが、雪まつりで見せた元気と笑顔を忘れずに、これからも手を取り合って、只見町の明るい未来を信じ前に進みましょう。

最後に、このイベントを開催するにあたり、ご尽力、ご協力いただいている皆様、そして、ご協賛を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。





忘れられない思い出・すてきな二日間

雪むすめさんからひとこと



原 育美さん

雪むすめをやることが決まった時、私に本当に務まるのか！？と不安で

いっぱいでした。けれども雪まつりが終わった今、雪むすめができて本当に良かったなと感じています。

雪まつり当日は町内外のたくさんの人たちとふれ合うことができ、とても嬉しかったです。また、もと山レースに参加したり、テレビに出演したり、巫女の格好をしたり、普段の生活の中では絶対に経験できないような体験をたくさんさせていただきました。

頼りない雪むすめでしたが、役場の産業振興課の方々を始め、雪まつりに関わったすべての人に助けていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。素敵な二日間をありがとうございました。



本名 沙織さん

今年の雪まつりは40回の節目であり、また昨年の災害からの復興を祈願

しての開催ということで「雪むすめ」の大役を果たせるか不安でした。しかし、地域の方々やたくさんの友人から励ましの言葉をいただいて、思い切り楽しもうという気持ちで臨むことができました。

もと山レースでは初めてノコギリに触れ、走るのが苦手な私にとって本当につらいものでしたが、参加できて嬉しかったですし、達成感でいっぱいになりました。一生忘れられない経験です。訪れてくださった皆さんのあたたかい言葉と笑顔に支えられた、本当に素敵な二日間でした。「雪むすめ」を務めさせていただけたことに心から感謝しています。ありがとうございました。

ための検討委員会が町に提言

豪雨災害からの復興基本方針にある「活力ある社会経済の再生」を実現することなどを目指し、「自然首都・只見」ブランド確立のための検討委員会が設置され、これまで、12月13日と1月27日の2回、季の郷湯ら里で同検討委員会が開かれました。

その間、各委員からの提案・提言の取りまとめが行われ、最終的に、9項目からなるブランド確立のための提言が1月27日に有田博之検討委員長（新潟大学農学部生産環境科学科教授）から目黒町長に手渡されましたので、その全文を8から9ページで紹介いたします。

また、提言に基づき、この事業を推進していくことについて、有田博之検討委員長からご感想を、さらに、ユネスコ・エコパークについて、福嶋司検討委員（東京農工大学農学部教授）から内容の解説をいただきましたので、併せてご紹介します。

今後は、提言を基にブランド確立に向けた事業の取り組みを考えております。

「自然首都・只見」ブランド化の提言作成に携わって



新潟大学農学部生産環境科学科教授
検討委員会・委員長 有田 博之 氏

域をみてきて思います。

委員会では「只見の良さは何か」が中心的な議論でした。共通した評価は、世界的な価値をもつ「只見の自然」と地域の「たたずまい」の卓越した素晴らしさでした。意外に思われる方もあるかも知れませんが、広大なブナ原生林を核とする只見の自然の世界的価値は、委員の一人で、生態学の権威である福嶋教授が太鼓判を押されています。「自然首都」という標語は、分かりやすく、素晴らしいアイデアです。

私達の提言は「只見ブランドを確立」する方法を、9項目にまとめたものです。多様な努力が必要ですが、中心となるのは「ユネスコ・エコパーク（生物圏保存地域）」の認定であると私達は考えました。自然首都・只見の自然とたたずまいの素晴らしさを内外に知らせるには、町おこしの幟に「只見エコパーク」と黒々と書くということです。エコパークというのは、ユネスコが認定する優れた自然・人間環境で、価値の高いものです。認定されるまでには役場と住民が一体となった取り組みが必要ですが、勝ち取る事ができれば「只見」の名前は世界に向けて高く掲げられ、多くの人が見目指してやってくるでしょう。

只見に来ると、昨年度の洪水被害の酷さを再確認させられます。遅ればせながら、委員を代表してお見舞い申します。この委員会は、災害に負けることなく、災害復旧を町おこしの機会として前向きに受け止めたいという町長の意向を受けて設けられたと聞きました。委員会の目標が「只見ブランドの確立」であることに、町長の深い想いを感じます。

只見を元気にするには、国内に止まらず世界の人々に知ってもらい、多くの人に只見を目指してもらうことが大切です。「只見ブランドの確立」というのは、遠くからでも「そうだ、あれが只見である！」と分かるイメージを作り上げることです。春祭りの幟（のぼり）のように、爽やかで皆が仰ぎ見るイメージができれば、町おこしにも繋がることでしょう。

町おこしというのは、町の内外に只見ファンを作ることだと私は思っています。町外の人に只見の良さを知ってもらい、足を運び、住んでもみようと思う人が少しでも増えることが大切です。また、それ以上に、町の人々が故郷・只見の良さに改めて気付き、より良いものにする取り組みを進めることが大切であると、多くの地

「自然首都・只見」ブランド確立の



エコパークについて

東京農工大学大学院教授 福嶋 司 氏

「エコパーク」とは国連のユネスコが主催する「生物圏保存地域」という語を、親しみやすく、わかりやすいように言い換えたものです。エコパークは大事な自然を大切に守りながら、自然を生かした地域振興や教育に資する価値を評価して指定されるもので、優れた自然の中での人間と自然の共生を目指す取り組みと言えます。同じユネスコが指定する世界遺産（世界自然遺産）がありますが、これは優れた自然遺産を保護することに重点が置かれ、最も大切な核心（コア）、それを守るための緩衝地帯（バッファ）が強調され、その外側に利用ゾーンが位置づけられています。エコパークも同じく3つのゾーンに区分されますが、人間の生活を重視しているのが特徴と言えます。人が利用せず厳重に保護する地域である「核心地域(Core zone)」、教育・研修、レジャー、実験的研究などに利用することができ、外からの核心地域への人の影響を和らげる「緩衝地域(Buffer zone)」、その外にある居住地域で、地域の社会発展・経済活動をになう地域である「移行地域(Multiuse zone)」がそれです。それぞれの面積をどのようにしなければならぬかの規定はありません。只見町の大

部分は先年、林野庁が設定した「森林生態系保護地域(84,000ha)」の中に含まれていますが、その森林生態系保護地域の管理のあり方は、基本的にこのMAB計画と同じですので、新たに地域区分をせずに、その区分をそのまま踏襲することも可能でしょう。これまでに我が国では、志賀高原地域、白山地域、大台ヶ原・大峰山地域、屋久島が指定されており、宮崎県綾町が指定される運びになっています。さらに、知床、南アルプス、対馬、西表なども申請を計画していると言われています。各地域では世界的なMAB計画の中で、その価値が国際認証されることによる地域のブランド化を求める動きが活発です。しかし、只見町に近い地域での申請の動きはないことは幸いといえるでしょう。「エコパーク」に登録されその価値が国際認証されることになれば、国際レベルでの認知度が高まり、「自然首都・只見」のブランドとしての価値が高くなり、「森林生態系保護地域」と共に二重のブランド化にもなるでしょう。もちろん、それに指定されることで町の個性を進めることができるでしょう。このように、「エコパーク」は自然資源と個性ある歴史と文化に富む只見町の個性化・ブランド化にきわめて適した制度と言えるでしょう。

地域ブランド確立アクションプラン講演会

平成23年12月に設置された「自然首都・只見」ブランド確立のための検討委員会からの町への提言を実現する取り組みとして講演会を開催します。

みなさまのご来場をお待ちいたしております。

- 日時 3月18日(日) 午前10時～正午
- 会場 季の郷湯ら里コンベンションホール「ゆきつばき」
- 講師 横浜国立大学学長 鈴木邦雄 氏
- 演題 「自然の恵みに支えられた生活と文化を守るためのしくみ
ーユネスコMAB計画ー
世界が注目する自然共生モデル地域の認定を目指して」
- 参加料 無料です

【問い合わせ】 只見町役場 総務企画課 企画班

電話 0241-82-5220 / FAX 0241-82-2117 / メール kikaku@town.tadami.lg.jp

ブランド確立のための提言

確立のための検討委員会

5 地域資源の持続的利用

只見の豊かな自然環境、豊富な農林水産物、個性豊かな人材を、地域資源として、その持続可能な利活用を図り、地域の産業振興と地域社会の活性化に努める。その際、只見の独自性と固有性を最大限追求し、「自然首都・只見」ブランドとして観光、地場製品の開発、そして市場開拓を目指すことが必要である。

6 伝統文化の継承・発展

只見地域の豊かな自然環境、天然資源を拠り所とし、それと深く関わる地域の生活、伝統文化は、今日、過疎化と高齢化が進む中で、大きく変わろうとしている。そうした中、自然と地域住民の伝統的な資産を保存し関わりを出来る限り維持しつつ、時代に即応した新たな土地利用、資源利用を模索する必要がある。その場合でも、環境負荷を最小化し、持続可能な利用を原則とすべきである。

7 「自然首都・只見」からの情報発信 (ブランドの認知をもとめて)

只見の価値を町外にも広く知らしめ、日本のみならず世界の共有財産として認知してもらうためには、只見地域の自然環境とそこに育まれた伝統的な生活文化を国内外に広く発信して行かなければならない。そのためには、単なるイメージ戦略（広告宣伝）や一方的な情報発信（インターネット）に止まるのではなく、人的なネットワークの構築も重要である。

8 ブランド強化のための交流事業の推進

「自然首都・只見」のブランド力を高めるためには、只見の自然環境やそれに支えられた生活文化を高く評価し、それらに親しみ、利用する町外の人口が増えることが重要である。そのような交流や活用を促進するための交通手段、宿泊施設、情報提供（マップや看板）、各種ガイドの育成・提供、施設整備（歩道、トイレなど）が求められる。

9 枠組みとしてのユネスコ・エコパーク

以上の事業を総合的かつ効果的に進める枠組みとして、ユネスコ・エコパーク（ユネスコ MAB 計画の生物圏保存地域）は、有力なツールとなりうるので、その申請・登録を検討する価値がある。

「自然首都・只見」

「自然首都・只見」ブランド

本委員会は「自然首都・只見」ブランド確立のため、必要な事項として下記の9項目を提示し、これらを踏まえ住民・行政が一体となって総合的・戦略的に取り組むことを提案する。

1 「自然首都・只見」ブランドの価値・根拠

只見町が「自然首都・只見」を主張する根拠となるものは、ブナ天然林や雪食地形に代表される特異で、広大な自然環境の存在であり、その自然環境を拠り所に成立してきた住民の生活、伝統文化である。それこそが只見町の地域的な価値の根源であり、ブランドである。こうした地域的な価値（財産）を地域の発展、活性化の拠り所とすべきである。

2 「自然首都・只見」ブランドの科学的評価

このような只見町の世界価値については、これまでに自然環境の総合調査や民俗・民具調査で明らかにされたところは大きいですが、未だ未解明な部分も大きい。単に地域の自然環境や生活文化を誇るだけでなく、科学的な調査研究に基づく価値の評価（真の価値評価）が望まれる。そのために、只見地域の総合的な学術調査を実施し、只見町を奥会津地域の調査研究の拠点とすべきである。

3 地域的な価値の共有

調査・研究によって得られた知見・情報にもとづいて、地域的な価値を共有化し、地域の誇りとアイデンティティを確立する。このため、得られた知見・情報は、蓄積され、共有され、公開され、いつでも利用できるものでなくてはならない。そのための手立てとして、ブナセンター活動、学校教育、生涯学習などの場を効果的に活用する。

4 自然環境の保護・保全

現在、只見町に存在する豊かな自然環境は、越後三山只見国定公園、只見柳津県立自然公園、林野庁の奥会津森林生態系保護地域、郷土の森、緑の回廊として保護され、地域の景観・生態系、さらに生物多様性の保護・保全に大きく貢献している。こうした自然環境を保護・保全することは、只見町のブランド価値を維持することであり、次世代に引き継ぐべき最大の財産である。自然環境が損なわれないよう最大限の配慮を行うべきである。

第1期生、全課程を修了

地域人材育成ダイヤモンドプラン事業 「ふるさと只見・人材育成講座」



▲ 成果を発表する三瓶清志さん



▲ 研修を修了された第1期生の皆さん

第1期生・プラン一覧表

(敬称略)

受講者名	住 所	タイトル・プラン
舟木晋太郎	小 林	古酒の販売
三瓶 清志	大 倉	ダイヤモンドプラン事業に参加して ～自分がこれからすべき事～
佐藤 弘	叶 津	只見にいる小魚の養殖と加工
目黒 道人	楢 戸	三石ジンジャー
目黒 広信	塩ノ岐	ダイヤモンドプラン事業に参加して ～2年間で得た事～
新国 真也	只 見	只見のそばを使った製品「ガレット」
山内 翔	二軒在家	原木きのこの加工販売
山内 幸三	布 沢	地域農業の継続と経済的自律(立)
星 美弥子	小 林	自然が宝 ～5年先を見つめて～
吉津 健	黒 谷	6次産業で集落活性化へ ～農村レストラン実現に向けて～
目黒 孝幸	只 見	只見町産大豆のブランド化と 大豆加工食品の製造・販売

平成22年度より、只見町教育委員会の重点事業としてスタートした「地域人材育成ダイヤモンドプラン事業」の第1期生、11名が2年間の研修を終え、全課程を修了しました。この事業は、幅広い知識を身につけ多方面にわたる地域づくりのリーダーとして、町の将来を担い、形成していく人材を育成することなどを目的に行われています。

第1期生の研修テーマは「只見町の六次産業を興す起業家の育成」でした。テーマに基いた数々の研修を終えられた受講生の閉講式は、2月26日に季の郷湯ら

里で開かれました。あいさつで、小沼一弘町教育委員長は「この講座での経験を生かし育んだ夢を実現してほしい。皆さんは2期、3期生の見本(目標)になり、町民の励みにもなります。がんばってください」と述べ、続いて目黒町長は「この経験を生かして、皆さんが考えていることをぜひスタートさせてほしい。それぞれの思いが実現されることを期待します」と述べました。

講評では、阿部マネジメントオフィス代表の阿部憲夫氏が「第1期生11名の志がひとつになれば、素晴らしい、魅力ある只見町になっていくことでしょう」と述べました。

閉講式には、受講生6名が出席し目黒町長から修了証が一人一人に手渡された後、受講生は研修での成果を発表、取り組みたいことのプランなどを説明されました。欠席者5名もビデオにより発表しました。

第1期生の皆さんに、研修を修了されたの感想をお聞きしましたので紹介します。皆さんの活躍を期待いたします。

2年間の 研修を終えて



舟木 晋太郎さん

今はまだ自分の中では地元のことが少しわかってきただけで、いろいろ考え実行することは一朝一夕にはできないかもしれない。しかし、講座に参加させてもらい様々な業種、職種の人たちと知り合いになれば、繋がりができたことが自分の財産でありこれからの糧になっていくと思う。



三瓶 清志さん

6次化も大切と思うが、1次産業が地元根付いていないと何にもならないと改めて思った。1次産業×2次産業×3次産業=6次化であり、1次産業がゼロならばいくら掛けてもゼロ。まず、1次産業をしっかり築き上げ、農業の牽引役になる事を目標とし、商工業と連携を深め、町の発展に寄与したいと思う。



佐藤 弘さん

東日本大震災が発生し、6次化は遠いものに思ってしまった。風評被害、農作物への不安など。自分の考えが進まず、まとまらず、雇用の危機もあり、目先だけを見て進む1年だった。これから先、世の中の動きが見えてこないが、自分なりに只見発の商品を作り進みたいと思う。目標、完全な6次化商品の完成！



目黒 道人さん

同期の人たちと話をするうちに具体的な目標が見えてきたような気がする。アイデアは1人で生み出しても事業として育てるには仲間が必要だということがわかった。1期生として講座は終了したが、計画した事業が始まるのはこれからだ。心躍る新しいチャレンジを楽しみながら地域振興に貢献できるような努めていきたい。



目黒 広信さん

今回の企画に参加させていただき、町内の異業種の方々とは知り合って、発想、考え方など、参考になり、また刺激を受けた。講演も見て、聞いて、感じる事ができて、これからも意識していきたいと思う。



新国 真也さん

2年間の受講を経て手に入れたものはイメージを実現するための手法と地域異業種の方々との横のつながりだ。自己でできることと協力を得ることの見極めをして、今後は形に残していきたいと思う。



山内 翔さん

どの講師の方も、生まれた故郷、地元を何とかしたいという想いが根底にあり、自分の原動力になっているのだと思った。私も、故郷を何とかしたい、何か役に立ちたいという想いがある。これからは只見町の発展と存続と町民の幸せと健康のために役に立ちたいと考えている。



山内 幸三さん

私は中山間地域に生まれ育ってこれからも生きていくのだという宿命を持って地域の活性化と振興を考え実践しなければと気持ちを新たに。「夢を背負って生きて行く」ことは、いくつになってもできる事だと考え、これからも地域の力を結集し、2年間の講座で学んだことを生かし、前に足を踏み出すことにしたいと思う。



星 美弥子さん

人口が減少し、高齢化になっている今、この地域にこんなに若い人たちが頑張っているのだという事を知り、そして、一緒に過ごせた事が一番の収穫だった。この力を結集し、実行し育てていくよう、みんなで協力すれば素晴らしい只見の未来が見えてくる。老人も子供も安心して過ごせる最高の只見になる事を願う。



吉津 健さん

2年間という長くて短い研修だった。内容もレベルが高く、満足できる内容であり、自分自身のスキルであったり物事に対する考え方など刺激が多かった講座だった。今後チャンスがあれば再受講したいと思う。



目黒 孝幸さん

2年間通して受講した内容については、どれもが今後の仕事や人生において為になるものばかりであった。今回の講座では、ビジネスプランの作成が最終目標ではあるけれども、この受講生の中から少しでも、自ら考えたビジネスプランが現実のものとして実行されれば、今回の講座は大成功であったといえると思う。

選手の熱い戦いに拍手と声援

自己のベスト記録に挑戦



▲距離リレー小学校女子の部スタート

春の到来を感じさせるような穏やかな天候のなか、就学前の子どもから70歳代の方まで参加して、元気に競技に臨み冬のスポーツを思いっきり楽しませました。

場内放送による開会式では、副大会長の齋藤修一教育長が大会宣言を行い、続いて目黒町長があいさつを述べ、競技が始まりました。アルペン、クロスカントリーともに練習を重ねてきた選手がタイムを競い、爽快な汗を流していました。

距離競技小学校リレーでは、町内3小学校の4年生から6年生が参加、各校とも厳しい練習の成果が滑りに表れ、先生や保護者から大きな拍手と声援が送られました。

特に、明和小学校が男女とも、前回に続き優勝、すばらしい成績を収めました。また、今年50回の記念大会でもあり、大会終了後には清酒一斗樽などが当たる抽選会を行い、さらに、過去40回以上本大会に参加され、選手のなかで最高齢者の「菅家亥三男さん・76歳（只見）」には、その活躍に対し特別表彰を贈りました。大会の成績は次のとおりです。（次ページに掲載）

ときおり小雪の舞った2月19日、良好のコンディションとなった只見スキー場で、第50回町民スキー大会が行われ、町民137人が参加。ハイレベルな力強い滑りで練習の成果を発揮しました。



▲特別表彰を受賞された「菅家亥三男さん」



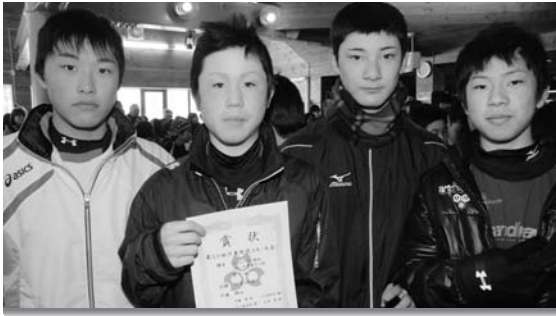
▲最年長「菅家亥三男さん」スタート



▲クロスカントリーの力強い滑り



▲男子・大回転



▲(左から)吉津さん・八久保さん・伊藤さん・五十嵐さん

朝日(只見中)

クロスカントリーリレー 優勝おめでとう



女子

▲(左から)若林さん・角田さん・菊地さん・山内さん

明和小学校A



男子

▲(左から)山内くん・築取(遥)くん・関本くん・築取(水)くん

明和小学校A

競技結果 (敬称略)

大回転

▼未就学児の部

*13名が参加(記録なし)

▼小学校

【男子1年の部】①菊地琉巧(明和小) 1分16秒37 ②浅野礼(明和小) ③大竹優真(明和小)

【女子1年の部】①鈴木来菜(只見小) 1分6秒26 ②目黒希(朝日小) ③芳賀雄大(只見小)

【男子2年の部】①新国太陽(只見小) 1分5秒81 ②山内浩希(明和小) ③鈴木涼(只見小)

【女子2年の部】①吉津花恋(只見小) 1分6秒33 ②渡部侑妃(朝日小) ③小野佑月(只見小)

【男子3年の部】①目黒拓海(只見小) 56秒92 ②渡部春輝(朝日小) ③芳賀雄大(只見小)

【女子3年の部】①目黒楓華(朝日小) 1分7秒6 ②五十嵐若菜(明和小) ③鈴木美羽(只見小)

【男子4年の部】①齋藤結(朝日小) 1分3秒07 ②五十嵐翔(朝日小) ③菅家尚真(朝日小)

【女子4年の部】①増田樹(朝日小) 1分27秒80 ②鈴木萌(只見小) ③山内理子(明和小)

【男子5年の部】①渡部賢太郎(朝日小) 56秒85 ②菅家空(朝日小) ③五十嵐貴哉(只見小)

【女子5年の部】①星鈴果(朝日小)

1分15秒90 ②吉津万尋(朝日小)

③新國かすみ(只見小)

【男子6年の部】①鈴木道也(只見小) 56秒72 ②鈴木翔(只見小)

③目黒史也(只見小)

【女子6年の部】①梁取奈生(明和小) 1分7秒91 ②酒井雪音(朝日小)

▼一般

【女子2部】①羽染亜紀子 1分41秒51

【女子3部】①鈴木サナエ 1分37秒89

【男子2部】①五十嵐利明 1分5秒66 ②関本信行 ③高島徳親

【男子3部】①五十嵐敦彦 1分2秒21 ②目黒光成

【男子4部】①菅家玄三男 1分32秒04

スノーボード大回転

▼一般

【高校生一般女子の部】①原育美 59秒12 ②鈴木薫

▼一般
【高校生一般男子の部】①菊地伸 31秒95 ②馬場正英 ③佐藤光

距離

▼小学校

【男子4年の部】①五十嵐彪斗(明和小) 8分20秒 ②布沢陽斗(明和小) ③角田海斗(明和小)

【男子5年の部】①五十嵐健斗(明和小) 14分50秒 ②上野慎太(只見小)

【男子6年の部】①梁取水咲(明和小) 13分08秒 ②八久保洋介(朝日小) ③梁取遥矢(明和小)

【女子4年の部】①菅家夏芽(只見小) 9分47秒 ②渡部美依(朝日小) ③鈴木伶菜(只見小)

【女子5年の部】①鈴木菜美(只見小) 16分12秒 ②大塚琴美(只見小)

【女子6年の部】①若林愛梨(明和小) 14分47秒 ②菊地美結(明和小) ③目黒眞子(朝日小)

▼中学校

【男子の部・クラシカル】①馬場康平(只見中) 13分56秒 ②増田寛(只見中)

【男子の部・フリー】①馬場那央也(只見中) 11分38秒 ②一条英昭(只見中) ③五十嵐高弥(只見中)

【女子の部・フリー】①山内結(只見中) 15分02秒 ②目黒百華(只見中) ③栗城涼花(只見中)

距離リレー

▼小学校

【男子の部】①明和小A 22分33秒 ②只見小A ③朝日小A

【女子の部】①明和小A 24分59秒 ②只見小A ③只見小B

▼中学校

【男子の部】①朝日(只見中) 24分38秒 ②明和(只見中)

いつかまた会えることを信じて 輝ける未来へ新たなスタート 福島県立只見高等学校卒業証書授与式



▲卒業証書を受け取る卒業生代表の五十嵐花奈恵さん

雲の間から心地いい日差しが校舎を照らした3月1日、平成23年度第48回卒業証書授与式が只見高等学校体育館で行われ、菅野諭只見高等学校長から、卒業生代表の五十嵐花奈恵さんに46名の卒業証書が手渡されました。

菅野学校長は式辞で「人との絆を信じ信頼関係を築き、ネットワークをつくり、明るい未来を切り開いてください。次世代を担う若い力が日本の復興には必要。地域の担い手になることを期待します」と述べました。続いて目黒町長は「夢は人と係わっていくなかで大きくなる。夢に向かって努力してください。」

町を支える力となつてくださ」と祝辞を述べました。

在校生代表送辞で、増田快さんは「先輩方は私たちの手本であり誉れ。先輩方の心を受け継ぎ頑張ります。先輩方も母校の誇りを胸に頑張ってください」と述べました。

また、卒業生代表答辞で、渡部凌輔さんは「いつかまた、このメンバーで、この場所で会いましょう。その日が来ることを信じています。今日までお世話になつた皆様に感謝いたします」と述べました。

卒業生の皆さん、おめでとうございます。

新年度事業などを審議 社会教育委員会定例会

3月2日に只見地区センターで、社会教育委員会第3回定例会が開かれました。

社会教育委員会は、社会教育行政に対する諮問的機関であり、学識経験者、学校関係者、社会教育関係者、家庭教育関係者からなる町民の代表5名により、定時又は臨時に会議を開き、社会教育の振興などについて審議している組織です。

今回は、新年度の社会教育事業(案)などについて審議され、活発な意見交換がなされました。なお、委員は次の方々です。(敬称略)



▲事業内容を協議する委員

放射線量リアルタイム測定システム



▲只見中に設置された測定機器

文部科学省では、学校や保育所などの空間放射線量をリアルタイムに測定し、10分ごとの測定結果を文科省のホームページで24時間公開するシステムの利用を始めました。

町内で測定機器が設置され、測定が始まっている場所は、只見、朝日、明和の各保育所と小学校、さらに只見中学校と只見高等学校の全8箇所で、地面から高さ50センチまたは1メートル地点の空間線量を測定し文科省のサーバーに送信されるシステムです。文科省のホームページでは、地図上から場所を選ぶと、その地点の最新データや履歴を確認することができます。

今後も、順次公共施設などに測定機器が設置される予定です。

福島県優秀教職員表彰

増田憲子 教諭 (只見小学校)



只見小学校の増田憲子教諭が、福島県教育委員会が行う平成23年度の「教育・文化関係表彰」で優秀教職員として表彰されました。この表彰は、全国一位レベルで活躍した児童生徒や、学習指導などで顕著な成果を挙げられた教職員を特別功績者として表彰するものです。

優秀教職員の部では、19名が受賞され、表彰式は2月10日に杉妻会館（福島市）で行われました。

増田教諭は、文部科学省の国語力向上モデル事業で、地域や校内の実践研究を主導され、児童の国語力と教職員の指導力の向上に努められました。このような日々の活動が評価され優秀教職員となりました。

文部科学大臣優秀教員表彰

猪野典由 教諭 (只見小学校)



学校教育において教育実践などに成果を挙げ貢献されている教員を優秀教員として表彰している文部科学大臣優秀教員表彰を只見小学校の猪野典由教諭が受賞されました。

猪野教諭は、教務主任としてPTA関係活動の活性化に努められ、また理科指導に優れ、児童の教材提示や単元構成の工夫と、きめ細かいノート指導により、児童の理科離れの改善に努めています。さらに教職員間の連絡調整や保護者をはじめ地域諸団体との連携を密にした教育計画の立案と実施を積極的に推進されていることなどが認められました。

表彰式は1月30日に東京で行われました。今後も地域の教育活動の充実にご指導をお願いします。

地域見守りネットワーク事業

みんなで助け合いの輪を広げよう！

只見町では、地域の高齢者や災害時要援護者避難支援制度登録者、一人暮らしの方などを対象に地域見守りネットワーク事業を開始しました。

この事業は、保健福祉センターや、町社会福祉協議会などがそれぞれに管理している対象者の情報を共有し、一人一人の住所や氏名、電話番号をはじめ医療の状況や家族の緊急連絡先、近隣協力者の名前や連絡先など緊急時に必要な情報が一目でわ

かる「地域見守り・緊急安心カード」を作成し、専用の容器に入れ対象者宅の冷蔵庫に保管しておくという事業です。

これにより災害時や緊急事態などのときに、誰が駆けつけても、冷蔵庫の緊急安心カードを見れば迅速に適切な支援や救急活動を行うことができるというもので、各地区の民生委



員が随時カードを配付しています。なお、病気の方がいる家庭や希望者なども登録できます。事業の詳細は保健福祉課（☎84-7010）にお問い合わせください。

▲緊急安心カードを手にする堀金里江さん(福井)

3年間の生活ステップに新たな旅立ち 只見町山村教育留学生第8期生送別式

奥会津学習センターでは、2月28日、只見町山村教育留学生第8期生の送別式が行われ、平成23年度は留学生9名が志を胸に巣立ちました。

はじめに、齋藤修一教育長が「志を実現するための努力を常にしてください」とあいさつを述べました。

続いて3月1日に卒業式を迎える留学生からは「3年間色々なことを学んだ。人との出会いを大切に頑張っていく」、「ここ

での生活で一番学べたことは親への感謝の心です。この気持ちを忘れずに、これからも頑張っていく」などと3年間を思い起こし、あいさつをしました。

齋藤教育長からは、留学生一人一人に記念品が贈られ、送別の意を表しました。

送別式には、学習センターを管理する鈴木慎介NPO法人ゆいネット只見理事長も出席され、あいさつを述べ留学生を激励しました。



▲志を胸に新たな道を歩む第8期生



▲ 都民など大勢詰めかけた新国勇さんの講演会

只見の自然や特産品を都内でPR

2月25日、東京の福島県八重洲観光交流館で、只見町ブナセンターの東京講演会が開かれました。参加者は62名と立ち見が出るほどのにぎわいのなか、ブナセンター主任指導員の新国勇さんが只見の自然を中心に講演しました。訪れた只見町出身者や柏市民、観光で只見を楽しんだ方などにより、活発な意見交換も行われました。また、観光まちづくり協会が只見町の物産販売を行い人気を集めました。

ひなまつり弁当 温まる手作りのおいしさを...

只見町食生活改善推進委員会では、毎年、3月3日のひな祭りに70歳以上の一人暮らしの方を対象に「ひなまつり弁当」をお届けする、只見町社会福祉協議会の事業に協力しています。今年も推進委員会の方々が、一品一品真心込めて手作りました。作りたての温かいお弁当は、民生児童委員の皆さんが、208人の方々に届けられました。お弁当を手にとられた方は、今年も、ひな祭り気分を味わいました。



▲ ひなまつり弁当を受け取る一人暮らしの方

燃 上福井地区「おんべ」 え上がる炎に無病息災願う



▲ おんべの火で餅を焼いて食べる参加者

今年一年の無病息災や五穀豊穰を願い2月26日、上福井地区で、歳の神「おんべ」が行われ約100人が参加しました。日中は集会所で舞踊やカラオケを楽しみ、夕方に茅や藁を積み重ね作られた高さ約7メートルの「おんべ」周辺に集合。年男らが一斉に「おんべ」に火を放つと、炎は勢よく燃え上がり氷点下の夜空を赤々と焦がしました。この日は千葉県柏市民も参加、雪国の伝統行事を体験しました。

伝 明和小学校「つる細工教室」 統の技を楽しく学ぶ

明和小学校で、地域の方との交流や、地域に伝わる伝統技術を学ぶことなどを目的に、地元のつる細工保存会の方8名を招き、2月22日につる細工教室を開きました。対象は5年生と6年生の23名、ときどき保存会の方に手伝ってもらいながら、集中し黙々と小物などを入れるカゴを約2時間かけて仕上げていました。児童は「最初は難しかったが途中から慣れてきて楽しくできた」と笑顔で話しました。



▲ 楽しく和やかにカゴを作る明和小児童

歌 只見保育所「ひなまつり会」 やゲームで楽しいひととき



▲ おすまし顔で気分はひな人形の保育所児

只見保育所で3月2日、ひなまつり会が行われ、楽しいひとときを過ごしました。はじめに、ひなまつりの歌をみんなで歌い、ムードが盛り上がったあと、ひなまつりのお話を聞いてお祝いをしました。ゲーム遊びでは、先生がひな人形に変身し踊りを披露したあと、ひな人形の間違い探しゲームを行い、服装や持ち物などが、関係のないものに変わるたびホールに、保育所児の大歓声が響いていました。

只 奥会津・雪まつりと温泉満喫ツアー 見ふるさとの雪まつりを体験

奥会津五町村活性化協議会（只見町・柳津町・三島町・金山町・昭和村）では、2月11日～12日に、東京都北区滝野川商店街周辺住民24人を招き「奥会津・雪まつりと温泉満喫ツアー」を行いました。同協議会は、昨年8月から11月まで滝野川商店街で特産品の販売や餅つきなどを行い交流を深めました。只見の雪まつりを体験した参加者は、深い雪と奥会津の伝統文化や食に感激していました。



▲ 入場門前で記念写真に納まる参加者

只 またたび屋・つる細工講習 見の伝統技術を次世代に...



▲ 技術を受け継ごうと作業に励むメンバー

只見のつる細工技術を伝承し、後継者を育てようと地域の有志が集い組織された「またたび屋（代表：渡部和子さん）」では、毎週木曜と日曜にブナセンターで、町内で採れたまたたびを使ってのつる細工講習を開いています。講師はつる細工技術を習得された地元の方で、多い日は20名のメンバーが集まり、講師の指導を受けながら、熱心にザルやカゴ作りに取り組んでいます。講習は3月末まで行われます。



Anna先生のLife in JAPAN Vol.14

■Anna・George
1987年生まれ。英国ノーフォーク出身。
2010年8月から只見町英語指導助手。
小学校と中学校で語学の指導を行います。

2月は只見の雪まつりに行きました。雪像を見たりたくさんのおいしいものを食べて、楽しく過ごすことができました。雪まつりの出店の食べ物は日本では一番においしいと思います。夜には友人達と花火を見ました。お城と花火を一緒に見ることができ、とてもきれいでした。今回の写真は只見中の1年2組の生徒が作った只見線です。私もちよこつとお手伝いしました！

さすがに雪の降る日が少なくなりましたね。だんだん春が来ると思うと、楽しみです。今年もあちこちで桜の花を見ること

ができればなあと思います。中学3年生は卒業です。とっても寂しいです。でも、小学生が新入生として中学校に来てくれることが今からわくわくしています。中学校でも英語の授業を頑張ってほしいと思います。

東日本大震災から1年がたちます。いかに日本の被害が大きかったか、忘れていません。でもこの1年で東北は元通りになりつつある部分が多くなっているのは本当に驚きです。早く以前の生活ができるようになることを願うばかりです。

(訳・只見中・福地)



広報ただみ診療所

朝日診療所

医師 湯田孝之

『鼻と咳・のどの関係』

長引く咳やのどの違和感について診察にいられたことのある方は多いかと思えます。原因としては急性上気道炎や肺炎、インフルエンザに代表する感染症や、喫煙によるもの、胃酸によるものなど多岐にわたります。

今回は鼻が原因で起こる咳やのどの違和感についてお話しします。鼻とのど、離れているのであまり関係がないように思われますが、なぜ鼻が原因になるかというと、鼻水が鼻の穴から出ずに後ろに回ってのどに流れ込むことによつて症状を起こします。たくさん鼻水が出ているときに、鼻水が回って飲み込んでしまうことは多くの方が経験されていると思えます。これを専門用語で後鼻漏(こうびろう)といいます。一時的な鼻水であれば症状は短期間で改善しますが、慢性的に鼻水が出るような病気では長期間症状が出ることがあります。代表的な病気としては慢性副鼻腔炎(ちくのう症)があります。鼻の穴の周囲には副鼻腔という骨に囲まれた空間があり、そこに膿がたまって、だらだらと鼻水が流れ出ることで、咳やのどの違和感を起こしたり、中には口に苦い水が落ちてくると表現される方もいます。

慢性副鼻腔炎は、顔のレントゲンやCTを撮ることで診断可能で、まずは2カ月から3カ月間抗生物質と去痰剤を内服して治療します。それでも改善しない場合は手術をして膿を出す場合があります。中には喘息が原因になっているものや、真菌(カビの一種)や腫瘍、また歯が原因の慢性副鼻腔炎もあるので、その場合は専門科で治療していただくことがよいと思います。

のどや肺に異常がないといわれていて、鼻が悪いと感じられている方は、鼻に原因があるかもしれませんよ。

町史

とっておきの話

212

南相馬市博物館学芸員 稲葉 修

只見とっておきの魚たち ②



只見町の魚は、イワナです。「家の脇の用水路にいる!」「クラスの友だちと釣った!」「民宿の夕食に出る!」。都会の釣人あこがれのイワナも、只見町ではごくありふれた魚です。しかし、このイワナ、只見町では実は絶滅している可能性があるので。

「うそだあ、田子倉湖にたくさんいる。小魚を食べて60センチ以上になる大物もいるよ。確かに只見町にイワナはたくさんいます。でも、ここでいうイワナは、ずっと昔から只見町に住んでいる只見町在来の(天然の)イワナのことです。」

イワナについて簡単におさらいしましょう。サケ科の魚イワナは、日本では北海道から本州に分布し、斑点の大きさや色の違いなどから、地域によりアメマス、ニッコウイワナ、ヤマトイワナ、ゴギに分け

られます。本州の多くでは水温が低い山の谷川に住み、昆虫やカエルなどの小動物を食べています。北海道や東北北部などの川では、河口近くまで水温が低いため海の近くにいたり、海に降りて魚を食べべ全長80センチになるイワナもいます。

さて、只見町内で釣ったイワナの斑点の色や大きさを観察された方はいませんか。現在釣れるイワナと昔釣れたイワナとでは、斑点の色や大きさに違いはなかったでしょうか。そうなのです。現在釣れるイワナの多くは養殖して放流されたイワナで、その大半が体に(釣上げたイワナの)瞳の大きさと同じか、それよりもやや大きい白点があるアメマス(別名エゾイワナ)なのです。しかし、只見町周辺の南会津町(旧伊南村・旧田島町)や三島町、柳津町などで養殖イワナを放流されたことがない沢のイワナを調べてみると、体に瞳よりも小さい橙色斑点があるニッコウイワナが生息していました。このことから、おそらく只見町はニッコウイワナの生息する地域に

含まれ、もともと生息していた在来イワナはニッコウイワナであったと思われます。はたして只見町に在来イワナが生息しているのでしょうか。2011年時点で、残念ながら筆者は確認していません。

只見町では、1970年代(昭和50年代)以降、養殖され品種改良されたさまざまなタイプのイワナが、只見川や伊南川、そして流域の沢の源流に放流されてきました。その結果、昔からいた在来イワナと養殖イワナが混じり合い、只見町から純粋な在来イワナが姿を消してしまったものと思われます。在来イワナはその地域の自然の歴史とともに大昔から歩んできた生き物です。研究の面だけでなく、お金では買えない地域

の大切な財産でもあります。ただ、只見町の在来イワナであるニッコウイワナがまだどこかに生息している可能性もあります。ぜひ見つけていただきたいと思ひます。



只見川水系で確認されたニッコウイワナ

町民文芸



只見短歌会

一月詠草

大塚栄一

指導

古川 英子

大きな木のこぶしの蕾膨らみて凍てたる如き空に輝く

吉津 政枝

豪雪で有名となりしわが里の女世帯や老人気遣ふ

馬場 八智

雪近き小春日和に姑の忌の塔婆持ち墓地へと向ふ

目黒 富子

下校時に屋根より落ちし雪除き待たせおきたる子らを通しぬ

関谷登美子

未熟なる我が歌なれど楽しみて読むとふ賀状の添へ書き嬉し

渡部ゆき子

南相馬の人ら招きておんべ焼の謂れ説きつつ御供の餅焼く

五十嵐夏美

グループホームに一人の暮し決めし子の生活の様見極め置かむ

渡部ヨリ子

他町村で騒がれしといふ豪雪は私の町では例年のごと

新国 洋子

野良猫の小ささを抱き撫ぜをれば飼猫戸陰に中を窺ふ

(出 詠 順)

只見俳句会

二月例会

目黒十一

指導

又壺歩

朝空に虹立ちながら舞う粉雪

旧正月袖をまくりて練る蕎麦粉

一 灯

浜の子に堅雪わたり教えけり

修 一

大寒の欠席者なき区会かな

喉元に今日も落ちずの屋根の雪

恒 夫

牡丹雪宙に浮く子を抱えおり

吉 児

妙齢のほだ切る速さ雪祭

下帯に飛雪粉々年男

邦 男

水害の跡は未だに福寿草

隆 堂

春寒むや介護手摺のぬくもりに

風音もなく沈まりて雪積る

邦 夫

悴みし掌が干芋と語りをり

リウコ

初日の出部屋に入れむと結露拭く

冴返る流る真水のうまさかな

笑 羊

駅舎へ冬の花火のくぐもりて

康 女

薪としてくべる廢材春浅し

冬木立ふつと消えたる人の影

都

雪載せし車の並ぶ駐車場

洋 子

初空や星の光のうすれつつ

若水を母にさし出し手を添える

一 穂

梅林や頬桃色の少女いて

雪ぐつをはいて茶飲みも晴がいい

屋根の雪見上げているよ老夫婦

被災児の声ひびきあう雪あそび

礼

餅花のはじけて飛びぬ圍炉裏端

寒の入軒に寄りくる石叩

音立てて炉火一族をあたたむる

おじの居て炉語りつづく昔かな

今月のお知らせ

電話番号

総務企画課	
総務班	☎82-5050
企画班	☎82-5210
民生課	☎82-5220
税務班	☎82-5110
町民班	☎82-5100
保健福祉課	
保健班	☎84-7005
福祉班	☎84-7010
産業振興課	
農林班	☎82-5230
交流推進班	☎82-5240
環境整備課	
地域整備班	☎82-5270
生活環境班	☎82-5280
会計室	☎82-5120
議会事務局	☎82-5300
農業委員会	☎82-5230
教育委員会	☎82-5320
学校給食センター	☎84-7180
只見保育所	☎82-2219
朝日保育所	☎84-2038
明和保育所	☎86-2249
朝日診療所	☎84-2221
(歯科)	☎84-2612
訪問看護ステーション	☎84-2130
こぶし苑	☎84-2101
保健福祉センター	☎84-7005
只見地区センター	☎82-2141
朝日地区センター	☎84-2111
明和地区センター	☎86-2111

税 今月の納期

3月26日までに
納めましょう

●農集排使用料
(3月分)

RECRUITMENT

募集

南会津地方 環境衛生組合 臨時職員

●雇用職種・雇用予定人員
臨時技能員 若干名

●応募資格

①日本国籍を有する者で、南会津町(館岩地域、伊南地域、南郷地域)・只見町に住所を有する者。

②地方公務員法第16条(欠格事項)に該当しない者。

③年齢資格等

平成24年4月1日現在、満60歳未満の者。学歴は問いません。普通自動車免許を有する者。

●勤務・待遇

①勤務地

南会津地方環境衛生組合
(西部クリーンセンター)

②待遇

●雇用の方法

①書類審査及び面接を実施のうえ、雇用予定者に通知いたします。

②面接日時・場所については、応募者に直接連絡します。

●応募手続及び期間

①応募手続

市販の履歴書に写真を貼り、必要事項を記入のうえ、西部環境衛生組合に提出してください。

②応募期間

平成24年3月13日(火)まで(執務時間中に限ります)

▼問い合わせ

〒967-0611
南会津郡南会津町山口字下荒町2172-9

西部環境衛生組合事務局
☎0241-72-2639

国家公務員 「国税専門官」 (大学卒業程度)

仙台国税局では、税務のスペシャリストとして活躍するバイタリティーあふれる税務職員を募集しています。

●受験資格
①昭和57年4月2日から平成30年4月1日生まれの者
②平成30年4月2日以降生まれの者で次に掲げる者
(1)大学を卒業した者及び平成25年3月までに大学を卒業する見込みの者
(2)人事院が(1)に掲げる者と同等の資格があると認める者

●受験申込受付期間
▽インターネット申し込み

4月2日(月)9時から4月12日(木)【受信有効】
▽郵送・持参申し込み
4月2日(月)から4月3日(火)
●受験申込書
▽受験申込は、人事院あてに原則インターネットで申込みをしてください。
※インターネット申込専用アドレス
<http://www.jinshiken.go.jp/juken.html>
▽郵送又は持参する場合は、最寄の税務署、仙台国税局人事第二課又は人事院東北事務局へ受験申込書を請求してください。

▽問い合わせ
仙台国税局人事第二課
試験研修係
☎022-263-1111
内線3236

女性消防団員

只見町消防団では、応急手当活動などを行なう女性消防団員を募集しています。入団を希望される方並びに興味のある方は、お気軽にご連絡ください。

●女性消防団員が増えると、皆で相談・検討した独自の活動を実施できます。その他、各種消防団行事に出動していただきます。

●災害時は、被災者の救護や現地本部の後方支援などを行います。災害現場での放水やポンプ操作などは一切行いません。

●待遇等詳細については、一般消防団員と同様となります。

●短期間の体験入団等も可能ですので、ぜひお気軽にご相談ください。

▽問い合わせ
町民生活課町民班
☎0241-82-5100

朝日診療所Q&A

こんにちは

どうしてるの？

Q 急に具合が悪くなった。予約はしていないが何時に行けばいいか。

A 平日の一般診療の受付は
午前：9時～11時30分
午後：2時～4時30分
(診療は正午まで)

となつています。
例えば、平日の正午すぎに何の連絡もなく、「診察してほしい」と来院されても症状に緊急性がない場合は午後の診察開始(2時)までお待ちいただくこととなります。ただし、命にかかわるような症状や大きなケガをされた時などは、受付時間に関係なく84-2221まで電話し、すぐに来院してください。年中無休24時間体制で対応します。どのような症状にしても事前に電話をいただくと、診察時刻をお知らせできますし、カルテの用意ができますので受診がスムーズです。

▼問い合わせ

朝日診療所
0241-841-2221

只見町議会議員選挙の
期日前投票制度

3月25日は、只見町議会議員選挙の投票日です。投票日に投票所に行けない用事のある場合は、期日前投票の方法により投票することができます。例えば、仕事、冠婚葬祭、旅行、買い物などの私用でも可能です。次の投票所で期日前投票ができます。入場券をお持ちになって、お近くの期日前投票所で投票してください。

●只見町役場期日前投票所

▽期間 3月21日(水)～
3月24日(土)

▽時間 午前8時半～午後8時

●朝日地区センター

▽期間 3月21日(水)～
3月24日(土)

▽時間 午前8時半～午後5時

●明和地区センター
期日前投票所

▽期間 3月21日(水)～
3月24日(土)

▽時間 午前8時半～午後5時

※入場券を持参してください。

▼問い合わせ

選挙管理委員会
0241-821-5130



自動車をお持ちの方へ

自動車の登録状況を確認してみましょう！

毎年自動車税の納付時期(例年5月)になると、県民の皆様からお問い合わせを多数いただきます。自動車税は4月1日(午前零時)現在の登録名義人である所有者に課税されますので、自動車の売買や転居等をされた場合は次のことにご注意ください。

Q 手放した自動車の納税通知書が届きました。なぜでしょうか？

A 自動車税は、4月1日(午前零時)現在の登録名義人である所有者(割賦販売等で所有権が留保されている場合は使用者)に課税されます。そのため、移転の登録や抹消の登録が行われていないと、もとの所有者に課税されることとなります。

自動車を下取りに出したり、他人に譲ったりしたときには、必ず運輸支局で移転登録または抹消の手続きをしましょう。

Q 転居して住民票は移したのに、自動車税納税通知書が届きません。なぜでしょうか？

A 自動車税の納税通知書は、運輸支局に登録されている住所(自動車検査証に記載されている住所)に送付されます。

転居したときには、必ず運輸支局で変更登録の手続きをしましょう。

Q 車検切れとなり、使用していない自動車にも、自動車税は課税されますか？

A 車検切れの自動車であっても、登録がされている限り自動車税が課税されます。

壊れて動かなくなったり、使用しなくなった車は運輸支局で抹消の手続きをしましょう。

抹消された翌月から月割で課税されなくなります。既に年税額を納めている場合には、抹消した翌月以降の税金は還付されます。

※ 登録に関する手続きは、南会津自家用自動車組合や自動車販売店、整備工場等にお尋ねください。

福島県南会津地方振興局税務部
電話 0241-62-5212 / 0241-62-5214

町長室日誌

〈 2 月 分 〉

- 1日 只見町農業振興協議会解散総会、只見町農業再生協議会設立総会及び第1回通常総会
- 2日 只見町議会2月会議、町長予算査定
- 3日 町長予算査定
- 7日 南郷トマト50周年記念大会
- 8日 南会津地方広域市町村圏組合管理者会、南会津地方土地開発公社理事会、会津高原ふるさと推進協議会理事会、南会津地方町村会総会、南会津地方衛生組合統合準備委員会第6回会議
- 9日 雪まつり「入場門」引き渡し式
- 10日 雪まつり「大雪像」引き渡し式、只見町議会全員協議会、只見ふるさとの雪まつり前夜祭
- 11日 只見ふるさとの雪まつり開会式
- 12日 只見ふるさとの雪まつり(第2日目)
- 13日 会津を拓く講演会
- 15日 只見高等学校振興対策会議第2回総会
- 18日 渡部恒三代議士を囲む「新春の集い」
- 19日 只見町民スキー大会
- 21日 県立医科大学会津医療センター準備室教授就任祝賀会
- 22日 福島県土地連南会津支部総会、南会津地方広域市町村圏組合議会
- 23日 臨時庁議、福島県町村会役員会
- 24日 福島県町村会定期総会、福島県国民健康保険団体連合会通常総会、只見町職員労働組合50周年記念祝賀会
- 25日 国土交通大臣室井政務官に対する災害状況説明会
- 26日 町民文芸コンクール表彰式、人材育成ダイヤモンドプラン事業閉講式
- 27日 会津ただみ振興公社取締会
- 28日 季の郷湯ら里役員会、只見川電源流域振興協議会予算総会、奥会津五町村活性化協議会予算総会
- 29日 全国町村会自治功労者表彰状伝達式、西部環境衛生組合議会定例会

町民の消息

(2月1日～2月29日届出分) 敬称略

■お誕生おめでとうございます

目黒 冬真 (とうま)
(男/五生・希衣子) 小林
野中 竜丞 (りゅうすけ)
(男/智之・聡子) 福井
藤田 歩夢 (あゆむ)
(男/久幸・めぐみ) 只見
渡部 あさひ
(女/裕紀・夕香) 福井
木津 明翔 (めいと)
(男/弘典・美幸) 大倉

■おくやみ申し上げます

五十嵐	チヨセ	92歳	蒲生
齋藤	ミネ	97歳	亀岡
矢沢	シツエ	83歳	二軒在家
酒井	喬司	78歳	長浜
酒井	トシエ	98歳	福井
酒井	吉次	92歳	塩沢
梁取	源左衛門	98歳	小林
井坂	ミチ子	69歳	福井

人のうごき

平成24年2月1日現在

人口	4, 835	(-)
男	2, 318	(+3)
女	2, 517	(-3)
世帯数	1, 845	(-1)
高齢化率	41.4%	

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 8 転出 6 出生 3 死亡 5

▽只見町の最大イベント「第40回只見ふるさとの雪まつり」も、約2万人の入場者を数え、最高のにぎわいを見せました。昨年の大水害から明るい話題も少なくなっていました。会場内には笑い声が響き、子どもから大人まで、元気な笑顔がそこかしこで見られました。この皆さんの笑顔とパワーと「みんなで復興がんばっぺ!」の合言葉があれば、必ず復興のときが訪れます。雪まつりの感動と思いを胸に、これからも力強く着実にみんなの前に進んでいきましょう。

あとがき

地区センター長
馬場 博美

只見地区センター
図書室 ☎82-2141

おすすめ新着図書

★限界集落株式会社



黒野伸一/著 (小学館)
「限界集落」、「市町村合併」、「食糧危機」、「ワーキングプア」、「格差社会」など日本に山積する様々な問題を一掃する、前代未聞! 逆転満塁ホームランの地域活性エンタテイメント!! 起業のためにIT企業を辞めた多岐川優が、人生の休息で訪れた故郷は、限界集落と言われる過疎・高齢化のため社会的な共同生活の維持が困難な土地だった。優は、村の人たちと交流するうちに、集落の農業経営を担うことになる。黒野伸一が、真正面からエンタテイメントに挑んだ最高傑作! 新しい公共がここにある。

★星を継ぐもの



ジェイムズ・P・ホーガン/著 (東京創元社)
月面調査員が真紅の宇宙服をまとった死体を発見した。綿密な調査の結果、この死体は何と死後5万年を経過していることがわかった。果たして現生人類とのつながりはいかなるものなのか。やがて木星の衛星ガニメデで地球のものではない宇宙船の残骸が発見された…。ハードSFの新星が一世を風靡した出世作。

★福島に生きる



玄侑宗久/著 (双葉新書)
2011年3月11日、未曾有の大震災が東日本を襲った。さらに福島第一原発から膨大な量の放射性物質が放出され、人類史上稀にみる災厄に追い打ちをかける。原発から西45キロに位置する福島県三春町の寺に住む作家は、そのとき何を感じ、何に祈ったのか。福島に生き、福島を見据え続ける筆者が問う、これからの東北、これからの日本。

★只見地区センターの図書室が利用できます。図書室に関するご要望や購入図書のご希望など、お気軽にお寄せください。

町民憲章

- ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 互いに助け合い親切をつくり楽しい町をつくりましょう
- 産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

ユキムシ(雪虫)

雪虫とは、2～3月ころ、雪の上に姿を見せる体長1センチほどの黒色の昆虫です。只見地方では、雪虫が出るようになると、春が近いと言われます。雪虫のことを、一般にセツケイカワゲラと言っていますが、現在セツケイカワゲラはユキクロカワゲラ(クロカワゲラ科)という和名に変更されています。雪虫は、クロカワゲラ科、シタカワゲラ科、ホソカワゲラ科の昆虫類を総称している名前ということになります。雪虫には、翅のある種類と翅のない種類の2つのタイプがありますので、よく観察してみてください。俳句では、雪虫として春の季語として使われています。



ユキクロカワゲラ(クロカワゲラ科)
— 今井初太郎氏(水戸市) 撮影 —

イベント

【特別展示】

- 森と生き物を描く ～平田美紗子イラスト展～
国有林を管理する森林官であり、一方では、雑誌「林業技術」に連載をもつイラストレーターとして活躍する平田美紗子さんの作品35点を展示しています。
期 間: 3月25日(日)まで

【第15回ブナセンター講座】

- ユネスコ・エコパーク(生物圏保存地域)とは何か?
講 師: 酒井暁子さん(横浜国立大学大学院環境情報研究院准教授)
と き: 3月17日(土)午後3時～午後4時30分
と ころ: ただみ・ブナと川のミュージアム セミナー室

※この広報紙は再生紙を使用しています

皆様のご支援、ありがとうございます。

豪雨災害による支援

多くの皆様から、お見舞いなどのご支援をいただいております。
誠にありがとうございます。いただきました支援金については、
災害復旧対策などのため有効に使わせていただきます。

支援金 6,238,934円 (51件)
3月5日現在